

Leaf Garden

リーフ ガーデン 2025年夏 第4号

番外編: 怖い本が苦手じゃない司書が選んだ怖い本

「ひぐらしのなく頃に」「ひぐらしのなく頃に解」シリーズ

竜騎士07/著 講談社 913.6リ (各4話)



昭和58年、山奥の村、雛見沢村へ引っ越して来た前原圭一は、仲間と一緒に「綿流し」という村祭りに行く約束をした。ところが、毎年綿流しの夜には「オヤシロさまの祟り」が起きるとい噂を聞かされる。祟りなど信じていない圭一だったが、後日、綿流しの夜に圭一に祟りのことを教えてくれた男性と、一緒にいた女性の二人に祟りが起きていたことを知る。次第に明らかになる村の秘密、仲間たちの過去と祟りとの関連、突然の豹変が、圭一の日常をじわじわと壊していく。

出題編では、昭和58年の村を舞台に全く違う4つの惨劇が描かれ、「解」では全ての惨劇の正体、そしてそれらを引き起こすきっかけとなった出来事が明かされる。圭一たちは惨劇を止めることができるのか。(O)



何読もう?
迷ったら!



「教室の怖い噂」「死者たちの声」「ここから出して」「血ぬられた都市伝説」(キミが開く恐怖の扉ホラー傑作コレクション)

朝宮 運河/編 汐文社 918キ

有栖川有栖や辻村深月、澤村伊智、宮部みゆき、乙一などなど。人気ミステリ作家たちのホラー小説を厳選収録! 怖かったり切なかったり、色々な作品を味わって、お気に入りの作家に出会おう!



図書館 → Y A 掲示板

☆ 本館YAコーナー展示(7~9月) ☆

テーマ: 「~怪異~」 Leaf Garden 第4号とのコラボ展示!
お楽しみに♪



YA(中高生向け)ページ 図書館の本をさがす



図書館
Instagram



編集のつづやき: 第4号特集は、「怖い本」! 怖い本って人気があるよね。みんなも好きかな? YA担当の司書で話していたら、5人中4人が苦手ということが判明! 中には手に取るのも表紙を見るのも怖いという意見もあったけど、みんな頑張っておすすめ本の怖い本を選んだよ。怖い本好きな人はもちろん、苦手な人ももしかしたら大丈夫かも?! 展示も見に来てね☆ (M)

特集:

怖い本が
苦手な司書が
頑張って選んだ
YAにおすすめしたい
怖い本

草津市立図書館(本館): 10~18時(火曜休)
南草津図書館(南館): 10~20時(月曜休)



図書館 HP

怖い本が苦手な司書が 頑張っア選んだ YAIに おすすめしたい 怖い本



「発見」 阿部 智里／著 NHK 出版 913.6 ア

山田省吾は、昭和40年、兄の自殺による死に疑念を抱き、兄の家族、そしてかつて兄が戦争中に関わった人々を訪ねて行く。一方平成30年、大学生の村岡さつきは平凡で変哲のない日常を過ごしていた。しかし、ある子どもが大学へ訪ねてきた日から少しずつ日常が崩れていく。あるはずのない彼岸花と空洞の様な目をした明らかに死んでいる少女が目の前に現れるようになったのだ。 「ねえ。どうしてあなた生きているの？」とさつきを責めたてる少女は一体誰なのか？ 2つの時代のストーリーが展開されていくうちに繋がるはずのなかった過去と現在の真実が少しずつ見えてくる。

好きな作家の最新作が出たので疑うことなく読み始めるとまさかの展開に本を閉じかけたが、結末を知らないままでは余計に怖いと半ば意地になって読み進めた。今回、本書を紹介するにあたり再読したが、やはり怖い。ホラー好きな人は夜に、苦手な人は昼に読むことをおすすめする。(S)

ジャパニーズ
ホラーが好きなら
コチラも！

「残穢」 小野 不由美／著 新潮社 913.6 オ

引っ越したマンションの部屋から、不意に聞こえる音がある。ほうきをはく音？ 誰か？ 赤ん坊の泣き声、床下からの呪詛、怪異現象をたどるうち、次々と浮かび上がってくる思いがけない事実。土地をめぐる因縁、死や穢れは場所と時代を超えて伝染する。きみの家は、大丈夫？



ほんとにあった怖い話
“ほん怖”
好きななら
コチラも！



「滋賀怪談 近江奇譚」 旭堂 南湖／著 竹書房 5913.6 キ

滋賀は、歴史上の舞台になることが多い県である。そして、そこには不思議な体験をする人たちがいるという。

本書は、滋賀に住む人や滋賀にゆかりのある人が実際に体験した話を伺った怪談・奇譚話である。作者は滋賀県出身の講談師、旭堂南湖。地元愛を爆発させつつ歴史ある滋賀の怪談奇譚を書き綴っている。

例えば、「祖父のにおい」と題した草津市の話では、引っ越した家に何とも言いにくいにおいがして、何も食べられなくなるが実家に帰るとその匂いはしなくなり、食べられるようになったという不思議な話が紹介されている。その他、飛び出し坊や奇譚や琵琶湖の鱒漁など34話、講談2話が収められている。1話がどれも短いので、ちょっと背筋がゾクッとするような話を読んで、暑い夏を乗りきろう。(F)



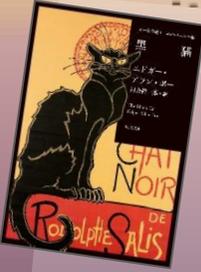
「山怪 山人が語る不思議な話」シリーズ 田中 康弘／著 山と溪谷社 388.1

日本の山には「なにか」いる。確かに「いる」。山で働き、暮らす人々が体験した奇妙な出来事。これは物語ではありません。実話です。



「九十九怪談」シリーズ 木原 浩勝／著 角川書店 147

99の現代実話怪談を収録。短編ばかりですぐに読めるよ。



「黒猫 ポー傑作選/ゴシックホラー編」 9933.6 ポ

エドガー・アラン・ポー／著 河合 祥一郎／訳 KADOKAWA

本書は、エドガー・アラン・ポーの「傑作選1ゴシックホラー編」として、11編の短編小説と3編の詩が収録されています。ポーは、推理小説の創始者、ゴシックホラー小説（中世を舞台に恐怖や怪奇な出来事を描いた物語）やSF小説の先駆者ともいわれ、日本の人気推理作家・江戸川乱歩のペンネームの由来となっているアメリカの小説家です。

表題作『黒猫』は、優しく動物好きな男が酒におぼれたことをきっかけに、大きく美しく真っ黒で驚くほど賢いプルートルと名付けられた猫とそれにそっくりなもう一匹の猫に、次第に恐怖と破滅へと追い詰められていく恐ろしい復讐の物語です。

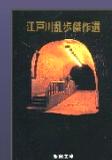
他に『赤き死の仮面』『アッシャー家の崩壊』『大鴉(詩)』などとともに、作品解説、人物伝、年譜も掲載されています。

ポーの不気味な世界をじっくり堪能してみたいかがでしょうか。(A)

ホラー名作が気になる人はコチラも！

「江戸川乱歩傑作選」

江戸川 乱歩／著 新潮社 5913.6 エ



ポーに影響を受け、日本の本格探偵小説を確立した乱歩。明智小五郎登場の「D坂の殺人事件」や「人間椅子」など代表作を多数収録。グロテスクなのに美しい、乱歩ワールドへいざ！



「富江」(全2巻) 伊藤 潤二／著 朝日新聞出版 726.1 イ

「富江」という名の美しい少女が、バラバラ死体で見つかった。担任やクラスメイトは沈み込む。だが、教室の扉が開き、彼らの前に現れたのは、変わりない姿の「富江」だった。死んだはずの彼女に驚愕する人々は、やがて恐怖の底へと突き落とされていく。

本書は、何度殺されても蘇り、増殖し続け、全てを破壊し狂わせていく、おぞましい女「富江」をめぐる連作の恐怖漫画を20作収録している。海外でも高く評価される漫画家・伊藤潤二の代表作であり、何度も映像化されている作品だ。

顔から髪が生える、床の血だまりから湧いてくるなど、吐き気がするほど気味が悪く、思わず目をそらしたくなるような描写が次から次へと現れる。だが、狂気が繰り返されるうちに感覚は麻痺し、不意に笑ってしまう瞬間がある。不気味な恐怖の行き着く先がここにあるのかもしれない。(M)



視覚で恐怖を味わいたいならコチラも！



「へび少女」 726.1 ウ

COMIC 株岡 かずお／作 角川書店
へびのたたりが世代を超えて少女に襲いかかる！伊藤潤二ら多くに影響を与えた、恐怖漫画第一人者の作品。



「怖い絵」シリーズ 723

中野 京子／著 朝日出版社
名画に隠された残酷な背景。見ただけでゾッとさせる絵もあれば、美しく見えるあの絵も、実は怖い？！